

2025年5月22日

住友電気工業株式会社

YKK 向けファスナー用材料「低炭素アルミニウム」の使用を拡大

住友電気工業株式会社（本社：大阪府中央区、社長：井上 治、以下「当社」）と住友電工グループの富山住友電工株式会社（本社：富山県射水市、代表取締役社長：山本康夫、以下「富山住友電工」）は「低炭素アルミニウム」の使用を拡大し、YKK 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松嶋耕一、以下「YKK」）に供給しているファスナー用材料の合金線すべてで 2025 年 5 月から「低炭素アルミニウム」の使用を開始します。

「低炭素アルミニウム^{*1}」は、水力発電等の再生可能エネルギーのみを使用して製錬されたアルミニウム地金です。住友電工ではこれを使用したファスナー用材料のアルミニウム合金線を YKK に 2024 年度から供給^{*2}しています。

昨今、ファッション業界では環境負荷への関心が高く、サプライチェーン全体で環境負荷低減への取り組みが拡大しています。YKK は二酸化炭素の排出量削減の取り組みの一つとして「低炭素アルミニウム」を使用した環境配慮型ファスナーへ段階的に切替えており、このたび、YKK へ供給しているすべてのファスナー用材料の合金線へ「低炭素アルミニウム」の使用を拡大しました。

当社グループは、2022 年 5 月に発表した「住友電工グループ 2030 ビジョン」に掲げた通り、「安心」「快適」な社会への貢献に加え、「グリーン」な環境社会の実現に向けてグループの総力を挙げて取り組んでいます。今後もサステナブルな社会の実現をめざしていきます。

*1 低炭素アルミニウム

アルミニウムの製錬工程では多くの電力を必要とし、電力源により二酸化炭素の排出量が異なります。今回利用する「低炭素アルミニウム」の二酸化炭素の排出量は、再生可能エネルギーを電力源としているため、アルミニウム地金 1 トン製造するにあたり 4 トン以下であり、化石燃料を用いた火力発電等の電力源を利用した場合と比較し、二酸化炭素の排出量を大幅に削減しています。

*2 アルミニウム合金線の供給に際して、富山住友電工での製造工程では、原料となるアルミニウム地金に対して「低炭素アルミニウム」の使用量を割り当てるマスバランス方式を採用します。

以 上

〈ご参考〉

■ 当社プレスリリース

「低炭素アルミニウム」を使用したファスナー用材料を YKK 株式会社へ 2024 年度より供給開始

<https://sumitomoelectric.com/jp/press/2024/03/prs031>

■ YKK 株式会社

YKK は世界 70 カ国/地域で事業を展開しています。「Fasten」= 留める、つなぐものを取り扱うファスニング事業では、創業 90 年以上にわたり、ファスナー、面ファスナー、バックルやスナップ・ボタンなどのファスニング商品を製造・販売しています。YKK は 2020 年 10 月に「YKK サステナビリティビジョン 2050」を策定し、5 つのテーマ「気候」「資源」「水」「化学物質」「人権」でそれぞれ目標を設定し、関連する SDGs の達成と 2050 年までの「気候中立」の実現を目指しています。

・ 5 月 22 日 プレスリリース

アルミ合金ファスナー用材料を 100% 「低炭素アルミニウム」に切替え
～2025 年 5 月より全量切替え運用開始～

https://www.ykk.com/newsroom/g_news/2025/20250522.html